

# 優れたQC/D精密な技術を武器にアジアに打って出る

マレーシアを基盤にマーケットの拡大を目指す。

株式会社 キメラ

代表取締役 藤井 徹也 (ふじい てつや)

Profile

1963年室蘭市生まれ。98年11月同社にアルバイト入社後、営業部課長、部長を経て、11年7月より代表取締役社長に就任。

# Q&A

## 展示会出展を契機に世界へ

優れたQC/D(品質・コスト・納期)を強みとして、日本国内で精密金型部品の製造加工を請け負ってきた同社のもとに、09年、ドイツで開催されている製造技術関連の国際見本市「ユーロモールド」出展の話が舞い込んだ。かねてより藤井氏は、同社の強みは海外でも活かせるのではないかと考えており、これはチャンスだと参加を決断した。

藤井氏は、この見本市出展にあたっては、金型を構成する「部品」を数多く展示した。これは藤井氏が「金型は一度出すと、その後どうしてもメンテナンスのための人材育成が必要となる。部品であればその品質さえよければそういった問題は起こらず、かつ、どこでも使ってもらえるだろう」と考えたからだ。果たして藤井氏の読み通り、同社の金型部品に対する各国の反応は上々で、早速ヨーロッパをはじめ多く

## 海外へ拠点を設置

これからの海外展開を考えると、海外に専門の営業拠点があった方がいい。ヨーロッパやアメリカは同社製品の引き合いは多いが、時差もあって日本からのコントロールは難しい。そこで10年、アセアンの物流ハブとしても注目されていたシンガポールに子会社「ユナイテッドエクセル」(以下「ユナイテッド社」)を営業拠点として設けることとした。早速、ユナイテッド社からアセアンに進出している日系企業を中心に営業を開始したところ、近場に同社の製造拠点が欲しいとの声が聞かれるようになった。ならば小規模でもいいから思い切って現地に拠点を設けようかと、藤井氏は09年から候補地を探して現地調査を始めた。すでに営業拠点のあるシンガポールは人件費も土地代も高い。タイ、ベトナム、インドネシアは言語と電力含めたインフラ、物流

## My Reflection

細菌学者パスツールの言葉「幸せは準備された心のみ訪れる」が座右の銘。「(アルバイトで入社してから社長になった経歴から) ツキもあるかもしれないけど、自分なりに努力を重ねてきた。人生いつまでも勉強ですね」と笑顔で語る。

といった問題があつて難しい。一時は、EUとFTAを結んでいるスリランカも候補に挙がったが、技術的に途上国レベルで断念した。数々の調査の過程を経て、最終的にはマレーシアが選ばれた。これは同国が英語圏であるため、片言でもコミュニケーションを取る事が可能と思われたこと。そして30年以上前から日本企業が多く進出しており、そのもともとのづくりの経験を積んだ良質な人材が多く、他国の場合より早く稼働させることができることが

## 需要の可能性を確認

## 展示会出展を契機に海外

### 現地スタッフに仕事を理解させる

こうして11年6月、子会社の「ユナイテッド社」が100%出資し、「アセンドー・グローバル・エンジニアリング」をマレーシアに設立した。同社の工場は12年4月から本格的に稼働開始。精密金型及びその構成部品製造をはじめ、電気・電子部品などの製造も行っている。しかし、現地では組織全体の構築がまだ進んでおらず、日本から派遣した11名のスタッフを「仮想管理職」として現場を何とか回しているのが現状だ。藤井氏は、日本人スタッフが慣れない土地で心身がすぐれない者も出るのはないかと心配し、現地を訪れた際には、日本人スタッフの全員と個人面談を行い、作業の進捗や悩みなどを聞くとともに、他のスタッフの様子についてもヒアリングしているが、南国独特の穏やかな風土がマッチしているのか、今のところ大きなトラブルはないという。

### なぜに仕事はある！

マレーシアの工場は、12年末現在で従業員数約30名。しかし、工場のキャパシティに見合う機械が確保されておらず、当初想定稼働率にも至っていない。できれば今後は2交代制にして稼働率を上げ、売上も日本円で月約3千万円を目標にしている。また、マレーシアを拠点に集約させるために、12年4月にはシンガポールの営業拠点を閉鎖。将来的には工場のあるマレーシアに海外向けの製造・販売拠点機能をすべて移し、海外ニーズに 대응していくことを検討中だ。

## 察知力

### Point

一方で、現地雇用のスタッフにはなかなか頭を悩ませていることが多い。同社の製品は、微細なチリも入らないクリーンな作業環境が要求されるのもとより、わずかな温度変化で影響を受けるようなデリケートなものばかり。そのため、現地雇用のスタッフには日本では徹底している「5S」(整理・整頓・清掃・清潔・躰)の考えをまず最初に徹底的に教え込むようにしている。ところが、この考えが現地ではなかなか受け入れてもらえない。「大卒の私

「これからの我が社の重点は間違いなく海外。それだけの仕事がある。現状は受け身の製造しかできていないが、提案型への転換を図り、『脱下請』」「キメラブランド」を目指す」と、藤井氏は海外にまさしくキメラのような様々な可能性を感じているようだ。



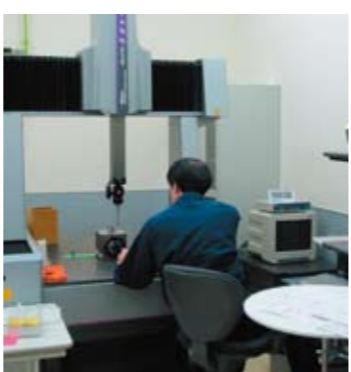
金型製造を行う室蘭本社



11年4月マレーシアに設立した現地法人「アセンドー・グローバル・エンジニアリング」の工場内



DATA  
[株式会社 キメラ] 室蘭市  
1988年創業。おもな営業種目はモールド金型・プレス金型・各種金型部品加工・精密金属機械加工・モールド金型設計・製作・試作。



高精度なものづくり技術が求められる同社。加工技術の向上、高精度加工、納期短縮を目的とした最新の設備を積極的に導入している